

文化庁月報

No.432
2004年

9月号

CONTENTS

文化人の本音 河合隼雄文化庁長官対談 第30回 ゲスト 黒沼ユリ子さん●ヴァイオリン奏者

音楽を通じて日本とメキシコをもっと近くしたい	4
長官コラム 文化庁の抜穴	9

いきいきミュージアム 美術館・博物館事業レポート④ 北海道開拓記念館(北海道)	22
芸術文化の活動風景⑥ 永田宣子(新国立劇場制作部舞踊総括プロデューサー)	23
そうかこうすればいいんだ! 著作権教育実践事例⑤ 日々の暮らしの中で育むルールとモラル	24
文化交流使の活動報告⑥ 北村昭斎(重要無形文化財「蝶鉋」(各個認定)保持者)	25
伝建地区を見守る人々 伝建歳時記⑥ うだつのあがる町並みと美濃和紙あかりアート展	26
遺跡を楽しむ⑥ 特別史跡平城宮跡に遊ぶ(奈良文化財研究所)	28
文化庁の地域文化振興施策⑥ 国際音楽の日	29
国語研究の最先端⑥ 言葉の東西	30
風を呼ぼう、わが町に 登録文化財との歩み⑥ 土佐漆喰と水切り瓦 個性を活かしたまちづくり	31
文化力ニュース from 関西 関西元気文化園の特色ある取組⑥ 地域の文化資産を再発見	32
国宝・重要文化財をもっと楽しむ方法—文化財鑑賞の手引き—⑩ きわめて正確につくられた北方領土の実測図	33
日本の伝統美と技を守る人々 選定保存技術保持者編42 西村種一(手機製作)	34

文化庁ニュース	
平成16年度文化庁舞台芸術国際フェスティバル	35
第2回国際文化フォーラム World Cultural Forum 2004	36
第28回世界遺産委員会 「紀伊山地の霊場と参詣道」登録	37
文化財の新指定(美術工芸品関係-2)	38

東京国立博物館 中国国宝展	41
奈良国立博物館 第56回正倉院展	42
京都国立近代美術館 ジャパニーズモダン—剣持勇とその世界—展	43
東京文化財研究所 第15回近代の文化遺産の保存修復に関する研究会	44
第38回美術部オープンレクチャー	44

文化財建造物の保存における観光活用の可能性	16
観光資源としての集落・町並み 観光資源としての地域資源の再評価	14
文化財建造物の保存活用と観光との連携	10

特集 文化財建造物の保存・活用と観光

今月の表紙
佐原市佐原伝統的建造物群保存地区
(千葉県, 平成8年12月重要伝統的建造物群保存地区選定)
ボランティアの案内を受ける観光客

新国立劇場スポットライト	45
10月の国立劇場	46
芸術文化振興基金ニュース	47
題字デザイン 桑山弥三郎	

文化財建造物の保存活用と観光との連携

1 我が国における観光動向と文化財建造物の役割

我が国は起伏のある地形と四季の変化に恵まれ、個性豊かな地域で構成される文化的資源に富む国であるが、これまでこれらを国際観光資源として十分に海外に向けての情報発信を行ってきたとは必ずしもいえない。しかし昨年初め、小泉内閣総理大臣が国会の施政方針演説において外国人観光客の倍增を目標として観光立国を掲げて以来、政府一丸となって実現に向けて動きだしている。関係閣僚会議によりまとめられた「観光立国行動計画」では、多くの施策が挙げられているが、その中には文化財や景観にかかるものが少なくない。とりわけ、文化財建造物や歴史的集落・町並みについては、景観の維持整備や地域づくりとも関連して、日本の魅力・地域の魅力の確立の課題の中で、多様に取り上げられている。

この行動計画は直接的には「観光立国」を目指すものであるが、その実現のために日本

の各地域が個性を磨き、魅力にあふれていることが必要であるとし、「観光」概念の革新を訴えている。

ところで、本年五月に内閣府が実施した「観光立国に関する特別世論調査」によると、日本のどのような魅力が日本ブランドだと思うかという問いに対して最も多かった回答は、「神社、仏閣など歴史的建造物や街並み」（約六六％）であった。こうした状況からしても、文化財建造物の保護施策は、これまでの成果を踏まえつつも、観光との新たな連携を含め、国民多数の期待に応える新たな展開が早急に求められているといえよう。

そこで建造物課では文化財建造物を保存活用しつつ、より成熟した観光を推進するための方策検討の基礎調査として、平成一五年度地域活性化事業推進費により「国際観光に資する地域活性化方策調査」を実施した。詳細については別稿に譲るが、本調査では観光立国の趣旨に則り、「光を見る」「光を示す」という観光の根幹の一部をなすべき文化財建造

物等の保存・活用施策の展開を目指し、特に歴史的集落・町並みの保存事業と観光とのより成熟した連携について検討することとした。

2 歴史的集落・町並みにおける観光の可能性と課題

歴史的集落・町並みの保護制度としては伝統的建造物群保存地区制度があり、国の選定した重要伝統的建造物群保存地区（重伝建地区）には、京都や高山、倉敷等のように、毎年多数の観光客が訪れている。しかしこれらを含め重伝建地区では現在でも通常の生活が営まれ、そこに観光客が入ってくるため、時に住民と観光客の間に緊張関係が生まれている。当調査で実施したアンケートでは観光を重要な地域産業として期待する一方で、慎重な意見も多い。しかし、近年では受入れ側が観光に自律的、主体的にかかわることによって、地域の生活や文化が適切に維持伝承され、質の高い観光が生み出される可能性があることにも注目が集まっている。後掲しているが、

外国人モニターツアーの参加者は歴史的地域の人々との交流に最も興味を示し、交流をとおして地域文化を理解していた。これに応えるためにも地域住民が地域のホストとして観光客と交流を深めるような動機づけや条件整備の方策が必要である。

また前述のアンケートでは、伝建地区は建造物等の現状変更規制が厳しく、観光に十分活用できないのではないかという意見も多い。このため文化財建造物の保存・活用について観光と共存する手法について継続的に検討及び普及啓発していく必要があることが確認された。

3 観光との連携を目指した文化財建造物保護施策の在り方

文化財建造物の保護施策には、指定文化財や登録文化財など単体の建造物の保護制度と伝統的建造物群の保存地区制度があり、それぞれ保存活用が図られている。しかし、地域の文化資源を体系的・包括的に一つの物語に沿って理解しようとする文化観光の視点で見ると、これまでの評価では見落とされていたものが新たに発見・発掘されることがあり、建造物に限らず、文化財保護法による指定・登録制度、伝建制度等の積極的な活用と施策の充実が求められる。また、今後景観法に基づく景観の保全整備施策との連携も有効となる



川越市川越伝統的建造物群保存地区（埼玉県、平成11年12月重伝建地区選定）：川越百万灯夏祭り（写真提供：財団法人日本交通公社）

う。今回の調査では、広範囲に広がる銅山等の産業関連の地域・集落の伝建地区としての保存と、これを生かした観光の可能性が検討された。

現在、文化財建造物の活用について、所有者等に保存活用計画の策定とこれに基づく積極的な活用を促しているが、今後、活用施設設置の支援等、活用促進のための施策展開が必要である。また修理現場の公開等への支援、さらにこれらの保存活用について助言するヘリテージマネジャー等の人材養成やその適切な配置を検討する必要もある。

4 まとめ

これまで観光と文化財保護は必ずしも両立していたとはいえない。文化財所有者と観光にかかわる住民・事業者、観光行政と文化財行政等との間で十分な連携がなく、集中的な観光を招く等により文化財の周辺環境が悪化し、文化財そのものも危機に瀕することもしなくなかった。ましてや文化財を地域資源、観光資源として体系的に理解し、真に活用しようとする気運は乏しかったといえよう。

地域における文化資源のさらなる発掘と必要な保存・活用措置の実施、そして地域におけるこれらを生かした自律的観光の展開、さらには国民一般の観光や文化財保護に対する認識向上により、観光と文化財保護の不幸な関係を改善する時期にきている。本調査を契機として広範な議論が行われ、観光にかかわるさまざまな主体が連携して新しい観光に向けて進むこととなれば幸いである。こうして、我が国の観光が再構築され、成熟した観光立国を目指すことにより、いっそう文化財の保存活用が推進されるよう取り組んでいきたいと考えている。

注：兵庫県が平成一三年度から実施中の歴史文化活用推進員（ヘリテージマネジャー）制度は、平成一五年度までに六九人が研修を終了し、文化財建造物の登録推進や伝建地区の修理指導、所有者等への助言などに取り組んでいる。

文化庁文化財部
建造物課長
荻谷勇雅



観光資源としての 集落・町並み

京都大学名誉教授・
関西福祉大学教授
三村浩史



1 はじめに

観光活動＝ツーリズムは、いまや地球的現象であり、国家や民族間、あるいは地域間の相互交流の場であり、雇用と経済発展にとっても大きな推進力となっている。これが地域の特徴ある発展にとっても重要な意味をもっていることは明らかである。国際観光についてみても、当初は外国人観光客誘致による外貨獲得が目的だったものが、観光に関する知識と体験が普及・円熟するにつれて、相互交流による文化発展へと進んでいる。Aクラス観光資源へのマストツーリズムから、テーマ志向性をもった個人や小グループによる多様なツアーの時代を迎えようとしている。いわばB・Cクラスであっても、知るほどに味わい深いところ、またそれらを大切に維持し育てているところ、訪問客を迎え入れる主人公の顔が見えるところへと関心が広まっている。

2 地域資源としての「伝建制度」の存在と役割

地域が醸成してきた文化的特色が尊重される時代となった。このことを加速しているのは、第一に「景観」という地域の楽しみ方である。土地の風情、人々の暮らしぶり、さまざまな時代の事物が共存している状態を、視覚的なイメージをとおしてトータルに知覚できる。地域の歴史と伝統および現代の情報も、その場所に立って眺めることで情景として生き生きと理解できる。第二に、地元のまちづくりにおいても、自らの「景観」をどう保存しつつ創造するか、そして訪問客に向けていかに自己表現するかといったテーマをも設けることで住民の熱意と参加が大きく盛り上がりつつある。こうした社会変化は「伝統的建造物群保存地区制度」＝「伝建制度」にとっても追い風となっている。

伝建制度は昭和五〇年にスタートし、やがて三〇年を迎える。この間、全国で六二地区

3 「伝建制度」に期待される新たな課題

(平成一六年三月現在)が国により「重要伝統的建造物群保存地区」に選定され、地域文化資源の保存と活用において目立った成果を挙げている。「集落・町並み景観」(以下、町並み景観)としては、建造物の集合体が多たる保存対象であるが、さらに、自然景観や文化景観、土木建造物等も含めてトータルに評価している。同時にその場所は、現実に住民が住み社会生活を営んでいるライブな生活空間であるから、その保存には地域社会のニーズと持続的に対応するという、これまでにない参加型運営プログラムをもっている。また、観光の進め方としても、地域住民が主体となつて訪問客を迎えるという地域文化交流型のプログラムとして展開されている点にも当該制度の発展性と可能性を見ることが出来る。

地域文化資源として顕著だと評価されている伝統的町並みは、いくつかの調査によると

全国で五〇〇地区以上あることが確認できている。「伝建制度」が、より大きなニーズに応えるためには、次段階への脱皮が求められている。そこで、最近の経験から考えていくいくつかの枠組みについて提言をこころみたい。

産業遺産との連携

町並み景観は、その地域の生産や流通やインフラストラクチャーなどの産業的要素を含めてきたが、これまでの取り組みは期待される

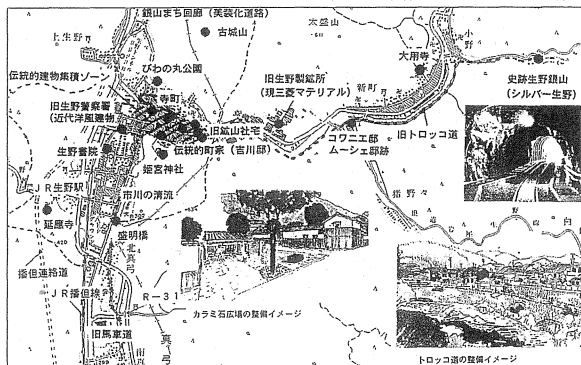
ほど積極的でなかった。しかし、近年では世界的に産業史研究が進展しており、二〇世紀の伝統産業研究について、二二世紀では、建築学会における近代建築遺産調査、産業考古学会などによる生産技術・機材プラント・工作物などの調査がすすみ、土木建設学分野でも近代における橋梁や港湾、交通施設、水利施設などのインフラストラクチャー遺産の調査や保存活用論が立ち上がりつつある。これらの産業遺産は、個々の事物や単体工作物としての独自の価値をもつとともに、そうした産業とともに生きてきた地域の歴史的な発展文脈及び地域景観の中で位置づけられることによつて、いっそう存在感と輝きを増すものである。伝建制度においても産業遺産と連携方策にもつと政策力を集中できるなら、いっそう迫力ある町並み景観づくりを支援できるだろう。

風景をはぐくむ文化活動との連携

「伝建」活動がはたすべき文化的な働きは、建造物保存を超えてもつと大きい。その場とは、地域の歴史的な発展文脈を表徴し、かつ、そこで生きて地域を育てる人々の記憶の器であり、さらに過去・現代から未来世代につながる住民活動が演出される広場である。そうした場の意味を持続させる精神的エネルギーとして、市民の情感のこもった景観イメージ＝風景観の醸成がとて大切となる。自然や歴史地理の学習、詩歌・祭礼・伝統行事の体験からも共通の風景認識がはぐくまれる。観光という観点からすると、地域の人々によるガイド・ツアーはとて魅力的である。その内発的效果としても、地域を最も理解し愛せるようになるのは、ガイド一本人たちだという実感がある。

産業遺産と伝統的町並みを生かすプラン

生野町・口銀谷の町並みをつくる会作成



景観法など関連制度・事業との連携
伝統的な家屋がひとまとまりで連たんしている町並みといった従来の伝建イメージに合わない散村集落や伝統的家屋が散在したり小ブロックが飛び地状に分布する地域も少なくない。それら分布範囲の全域を従来の運用にもつと伝建制度で保護するには、多少運用において工夫が必要であろう。その場合、本年度中に施行される「景観法」との連携を探るのも、新たな展開が期待できようである。ま

今後の「伝建制度」においても、有形の要素と無形の要素を連携させるソフトな仕組みをもつと充実させたいものである。

観光資源としての 地域資源の再評価

日本人の観光行動と産業観光

近年、個を大切にするライフスタイルが志向される中で、われわれ日本人の観光行動も変わってきている。従来の観光行動は、提供されるパッケージを集団で行動する観光が主流を占めていた。観光地では、集団を受け入れる体制が求められた。そのため、大規模な宿泊施設や観光土産物・物産施設など、観光地のもつ集客力（魅力）に合わせた受け入れ施設の整備が必要であったと言えよう。しかし、今日志向されてきた観光ニーズは、個々の目的をもった観光行動であり、個人のライフスタイルや嗜好をもとに組み立てる観光に変化している。すなわち、従来では観光地として認識されていなかった産業遺産・土木遺産などの文化財建造物にも産業観光としての活用が期待できるようになってきた。

従来、産業遺産・土木遺産の評価は、建造物単体（建造物群であっても）の技術的な文化財的価値についての視点が強かったため、そ

の保存・活用においても見せることに主眼がおかれがちであった。しかし、文化財建造物は地域資源（資産）であることから、これを観光資源として再評価すれば、従来とは異なる保存・活用の考え方も生じてこよう。

外国人モニターツアーからの指摘

ここでは、栃木県・群馬県にまたがる産業遺産について、欧米系外国人によるモニターツアーを実施した結果をもとに、新しい文化財観光の在り方について論じてみたい。

栃木県足尾町は、専門家の誰もが産業遺産の宝庫であることを疑わない。しかし、モニターツアーで指摘されたのは、地域住民の関与が希薄なことである。モノはあってもそこに生活している住民が存在していない、人が存在していないことはその地域の文化的連続性が感じられない、すなわち文化が存在しないことになる、と彼らは指摘する。

足尾から延びる「わたらせ渓谷鉄道」は、もともと足尾で産出された銅の輸送のために建

設された鉄道であり、鉄道そのものが産業遺産である。現在、第三セクターとして運営されているが、モニターツアーでは、この鉄道の評判が良い。彼らは、途中駅での停車時間に乗務員の方と話をしたり、乗客と話をしたりを楽しんでおり、この産業遺産たる鉄道が現在の人々の生活と関わっている状況に、興味をひかれたようだ。

織物の町として栄えてきた群馬県桐生市では、歴史的建造物をそのまま活用した商店やイベントスペースなどが、本町一・二丁目地区に存在する。またそこには、からくり人形を使った浄瑠璃などの伝統芸能・文化も継承されている。すなわち、地域住民によって文化的連続性が保たれており、伝統と生活が融合している状況にあり、それを訪問客に紹介する地域コミュニティが醸成されている。

次に訪れた栃木県足利市も古くから織物の町として栄え、その中心市街地には国の史跡となっている足利学校・鎌倉寺などがある。歴史的な風情のたまたまのなかで、商店が軒を

連ねており、生活の息吹が感じられる。また、煉瓦造の鋸屋根工場を保存している会社では、繊維産業の最先端技術が開発されている脇で、昔ながらのボイラーも保存されている状況にある。

モニターツアーでは、桐生市・足利市での評価が高い。彼らは、歴史・文化と生活が融合している、すなわち新しい歴史と伝統を地域住民が築いていることに興味をひかれていた。

地域資源の認識不足

桐生市・足利市では、これらを観光資源、地域資源とする認識は決して高くなく、まして活用という観点には至らなかった。これには、資源を一地域でのこととしてしかとらえていない側面があり、隣接する両市でも連携して活用する気運すらない。

一方で、北関東の両毛地域として見ると、桐生・足利にとどまらず、織物産業を中心に近代化を果たした都市が連なっている。単独の地域での観光資源に無理があっても、複数の地域に複数の視点での観光ルートを作成することが可能である。例えば、わたらせ渓谷鉄道を線として両端の足尾・桐生の近代産業遺産の観光など、具体的な観光資源の結びつき・組み合わせによって複数の観光モデルコースの設定も可能であろう。

そこで課題を整理すると以下のことが指摘できる。

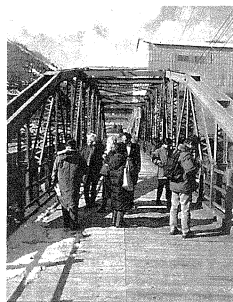
- ・産業観光等の視点で地域資源を評価できていない。
- ・人的スタッフ（ボランティアガイド）が充実していない。
- ・来訪者（国内外を問わず）の嗜好や行動パターンの分析がなされていない。

・受入れ態勢に温度差が生じている。

- ・地域資源に対する市民意識が醸成されていない。

住民が担い手となる文化財観光

こうした文化財建造物などの地域資産を観光資源とするためには、そこに人が介在する必要があるということである。学習によって感じる観光では、文化財建造物についての情報を提供するだけでは魅力がない。地域における建造物の存在意義や地域の変容過程、そこで創出された文化や地域コミュニティなどの情報を訪問者に提供するシステムが必要である。受入れに対する地域住民のホスピタリティが重要であり、そのためには住民が主体となつて地域資源を核にした文化財観光のための社会システムを構築することが必要であろう。



足尾に残る産業遺産（古河橋）



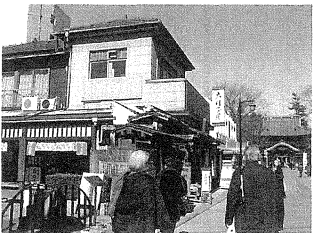
鉄道車内での交流（わたらせ渓谷鉄道）



からくり人形の説明に聞き入る（桐生市・有鄰館）



幼稚園として活用されている文化財建造物（足利市・大川家住宅）



商店の存在も欠かせない（足利市・大門通り）

足利工業大学工学部
都市環境工学科教授
為国孝敏



文化財建造物の保存における観光活用の可能性

文化庁文化財部建造物課

1 観光とは

中国の四書五経の一つである「易経」という書物の一節に「観國之光、利用賓于王」とあり、この「観國之光」が観光の語源とされ、国の価値あるものをみせることが国のつとめであると説いています。

現在、我が国では国際交流を増進し、経済等を活性化するために国際観光振興が国家的課題として掲げられています。冒頭に述べたように、観光の本来の意味からすれば、国の光＝価値あるもの、その一つである文化財を「国の光」として内外に示すことは、観光行動の重要な行為といえます。文化財を保護する立場としても、国際観光に資するものとして文化遺産を再発見し、特に活用していくための取組の検討が求められています。また、文化財建造物や伝統的建造物群（以下、文化財建造物）の保存・活用には、地方公共団体や

地域住民の主体的な取組が必要であり、地域振興につながる活用方策の一つとして地域住民の適切な「観光活用」への取組が求められています。

そこで建造物課では観光活用という観点から、文化財建造物の保存・活用に向けての課題等の基礎的情報を与えるために、平成一五年度地域活性化事業推進費により、財団法人日本交通公社に委託し、「国際観光に資する地域活性化方策調査」を実施しました。本調査においては、観光とは地域の歴史や生活文化まで含め五感をもって「国の光」を感じ、深い感動を引き起こすものとして観光本来の意味を再確認しつつ、観光活用による文化財建造物の保存・活用方策及び国際観光の振興について検討しました。

2 調査の目的と視点

建造物の様式は地域ごとに異なり、多様な

のアンケート調査の結果と比較検討しながら、詳細調査を実施しました。最後に、国際観光に資するという点から①国際観光にふさわしいテーマとして日本の近代化を支えた産業関連の集落、②国際観光の日帰りルートを想定した成田空港周辺、という二つの関連集落を抽出し、それぞれの評価及び観光活用についての課題を整理しました。

最後の新たな歴史的集落・町並みの発掘及びその観光活用についての調査結果については事例紹介で解説しますが、前者の二つの調査から抽出された課題について、次に簡単にまとめます。

最初に、重伝建地区に対するアンケート調査によると、国際観光を進める際に、言葉の問題が共通の課題となることがわかりました。人材不足のため、外国人向けのパンフレットや地図の整備あるいは通訳の確保など十分に対応できないことが原因となっているようです。さらに、単に言葉の問題だけではなく、伝統的建造物群という文化財の価値を損なわないように、観光活用を進めるためには、さまざまな観点からの専門的知識が必要であり、それらの魅力を活かした総合的な活用計画が策定できる人材が不足していることも課題の一つといえます。特に重伝建地区の半分近くは地方の小規模な地区が多いため、全体的に観光客を受け入れるためには人材が不

建造物が各地に残されています。その中で単体として価値の高いものは指定文化財建造物あるいは登録有形文化財建造物として、また伝統的建造物群としての高い価値を有する集落・町並みについては伝統的建造物群保存地区（以下、伝建地区）制度という地区保存の制度によって文化財として保護され、これらの文化財建造物は国内外から多くの観光客をひきつけています。しかし、集落・町並みの多くは、現在でも人々の生活が営まれている場であるため、外来者との軋轢が生じたり、集落・町並みの価値を損ねるような行動もたびたび見られました。

そのため、最初に受入れ側の「観光」に対する意識調査を実施した上で、適正な「観光活用」について整理する必要があります。また調査対象地域は、国際観光振興という視点から、多くの外国人観光客の窓口である成田空港周辺及び、多くの外国人が来訪する東京からアクセスしやすい地域として関東周辺を

足し、多くの外来者を受け入れるには地区として小規模であるため、外来者の総合的な管理体制を整えることが必要とされています。これ以外にも、文化財建造物の活用に関する課題として現状変更規制の制約感や維持のための資金不足等さまざまな課題が明らかとなりました。

次に前述した課題等について、すでに観光客の受入れの体制が整備されている高山市、佐原市、会津若松市の実態調査と比較してみます。高山市、佐原市の二市も重伝建地区を有していますが、外来者の受入れの体制も伝建地区のみで検討するのではなく、外国人向けの観光案内や受入れ施設など市全体で広域的に取り組んでおり、伝建地区だけの観光活用でないことが注目されます。重伝建地区を有するアンケート調査では、地区内で外来者を受け入れるための駐車場の確保や宿泊施設の不足などを挙げていますが、高山市、佐原市では伝建地区を含む周辺の地域も含め広域的な観光活用が伝建地区の観光活用を支援していることがわかります。

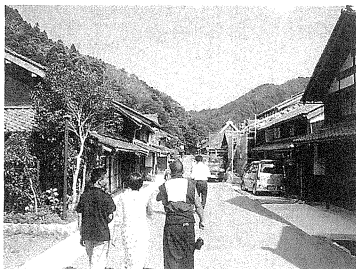
アンケート調査からわかるように多くの市町村では「地域の魅力を多くの人々に知ってもらうための観光」という点では、国内観光振興については九割が、国際観光振興についても八割が積極的に取り組んでいきたいという回答でした。そのため文化財建造物の保存・

3 歴史的集落・町並みにおける観光活用の課題

歴史的集落・町並みにおける観光活用を検討する前に、以下三つの調査を実施しました。最初に重要伝統的建造物群保存地区（以下、重伝建地区）を有する市町村に対して、観光活用における課題等についてアンケート調査を実施しました。次に、すでに外国人を含む観光客の受入れの体制が整備されている、高山市、佐原市及び会津若松市に対して、前掲

表2 委員及び委員会開催概要

調査委員		
委員長	京都大学名誉教授・関西福祉大学教授	三村浩史
委員	新潟大学建設学部助教授	岡崎篤行
	文化庁文化財部建造物課課長	刈谷勇雅
	東京大学大学院工学系研究科都市工学専攻助教授	北沢 猛
	コラムニスト	桐谷エリザベス
	(財)日本交通公社理事・観光マーケティング部長	小林英俊
	工学院大学建築都市デザイン学科助教授	後藤 治
	足利工業大学工学部都市環境工学科教授	為国孝敏
	(財)社会経済生産性本部余暇総研究主幹	丁野 朗
	昭和女子大学専任講師	Mark CHANG
	立教大学観光学部教授	安島博幸
委員会開催概要		
○第一回委員会		
日時：平成 15 年 11 月 21 日（金）		
協議内容概要：		
・調査で用いられる用語の定義、調査範囲		
・産業遺産の現存状況と観光		
・文化財と観光		
・本調査の進め方		
○第二回委員会		
日時：平成 16 年 1 月 22 日（木）		
協議内容概要：		
・伝建地区を有する市町村へのアンケート調査について		
・歴史的集落・町並みにおける国際観光振興事例調査		
(高山市、佐原市、会津若松市)		
・「産業関連集落」という用語について		
・在郷町について		
・国際観光振興の対象について		
・情報伝達の方法について		
・伝建地区での観光行動		
○第三回委員会		
日時：平成 16 年 3 月 18 日（木）		
協議内容概要：		
・事例報告（群馬県養蚕集落、足利・桐生調査報告、利根川水城都市調査等）		
・新たな伝統的建造物群の評価と保護制度にむけて		
・本調査報告書案について		



平成 16 年 8 月、上中町熊川宿伝統的建造物群保存地区（福井県、平成 7 年 10 月重要伝統的建造物群保存地区選定）において、ブータン王国の文化財建造物の保存に携る職員や「ブータンの歴史的建造物保存に関するエッセイコンペ」を受賞した子どもたちを招聘し文化交流を図る。

物の保護の実務にも精通した幅広い立場から観光資源保護に当たれる専門家の育成が必要です。

④広域的な範囲での観光活用の必要とその保護

従来の文化財建造物は面として保護措置を図っている伝建地区でさえも観光活用を検討する上では非常に小規模です。文化財建造物を核として全体を網羅する広域的な範囲を視

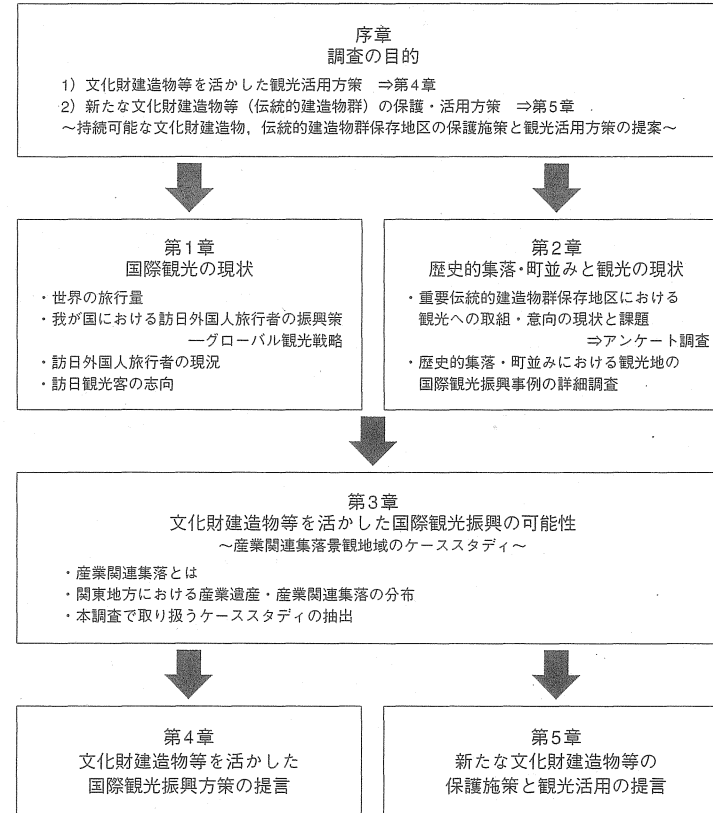
野に入れた活用計画が必要となります。さらに今回の調査において、近代産業に関連する集落などは、工場や社宅といった家屋及びそれらをつなぐインフラストラクチャー（社会基盤）などを含めたエコ・ミュージアム的なところ方による観光活用を進めることによって、単独では小規模であっても面的な広がりが見られ、個々の文化財建造物の価値を顕在化することができました。こうした広域な個々の保護

の施策だけではなく、広域のかつ複合的な地域の保護の施策についても今後、検討する必要があります。

このような総合的な評価等を検討することによって、国の光がより成熟したものになるようにしたいと考えています。

*1 重要伝統的建造物群保存地区を有する五市町村（六地区）の文化財担当及び観光担当者に対して実施しました。回収状況は四九市町村（五五地区）から得られました。現在、重要伝統的建造物群保存地区は六四地区です。

表1 「国際観光に資する地域活性化方策調査」報告書のフローチャート



活用と観光についての方策については早急に検討するべきと考えられますが、その一方、これまで観光客を受け入れてきた地域住民は、観光に対して依然として慎重な意見も多く、こうした地域の理解を得るための観光活用を示すことが効果的な方策といえます。

さて今後、文化財建造物の保存・活用と観光活用に対して行政上の支援策としてのどのような方法が考えられるでしょうか。

4 支援の方向性

①観光活用による文化財建造物の保存・活用への意識啓発

観光活用に限定されたことではありませんが、文化財特有の課題として活用の際に現状変更の規制感を強くもっていることが明らかとなりました。過剰な規制感や誤った認識を取り除き、建造物という本来の機能として活用することへの意識啓発をすすめる必要があります。

②歴史的建造物の多様化を活かした観光活用による文化財活用手法の検討

「事例紹介」（二〇―二二頁）でみられるように、さまざまな角度から歴史をたどり広域的に地域資源を再評価してみると、これまで見過ごされてきた歴史的建造物の価値が顕在化されました。歴史的建造物は建造物そのものの価値だけではなく、地域との関わりによってその価値が表出されるものです。地域性に重点が置かれた伝統的建造物群などもさらに地域性を配慮した評価及びその保護について検討する必要があります。

③文化財建造物の保護及び観光活用の専門家の育成

文化財建造物は関係者の努力によって今まで保護されてきましたが、観光においても資源保護する意識を取り入れる必要があります。そのためには文化財を単に解説するだけではなく、観光者の立場に立ち、また文化財建造

図1 県内に残存する養蚕集落の分布状況

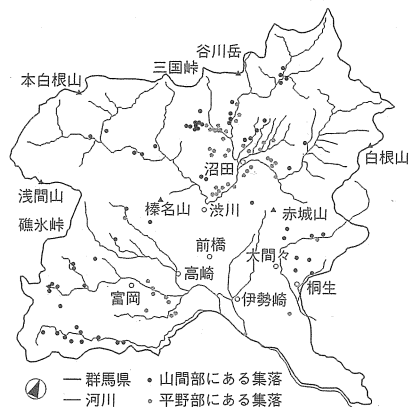
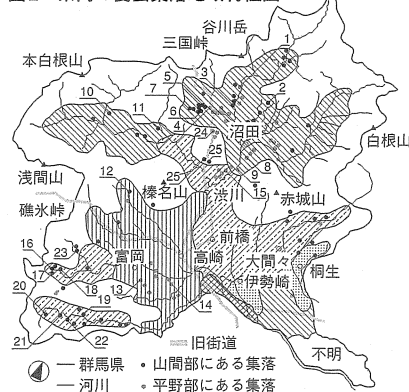


図2 県内の養蚕集落地域特性図



明治期における養蚕集落の地域特性

養蚕を主とする地域	養蚕・製紙・織物を主とする地域
製紙を主とする地域	蚕種を主とする地域
織物を主とする地域	不明および山岳地域

- 小仁田 (水上町)
- 上野村 (沼田市)
- 和名中 (月夜野町)
- 須川 (新治村)
- 松原 (新治村)
- 上入須川 (新治村)
- 奥平 (新治村)
- 糸井 (昭和村)
- 棚下 (赤城村)
- 赤岩 (六合村)
- 岩島 (吾妻村)
- 関沢 (倉瀬村)
- 天引本村 (甘楽町)
- 黒熊 (吉井町)
- 大淵 (子持村)
- 星尾 (南牧村)
- 勤能 (南牧村)
- 砥沢 (南牧村)
- 平原 (神流村)
- 榎原 (上野村)
- 乙父 (上野村)
- 川和 (上野村)
- 本宿 (下仁田町)
- 新田 (高田村)
- 上中尾 (小野中村)
- 程久保 (小野中村)

養蚕は近代日本の主幹産業の一つであり、群馬県でも盛んに行われていました。小規模なものは農家の母屋や付属屋を改造し、各地で独特な民家形式を生んできました。しかし養蚕は日本各地で行われていたため特に珍しいという意識もなく、これまでは観光資源として注目されることはありませんでした。しかし、養蚕に従事する農家がほとんど失われた現在、今日までさまざまな形で発展を続け、県内はまだ比較的多く残されてきた養蚕集落の希少性が高まっています。そこで、現在の残

存状況等を確認するべく総合的な調査を実施しました。その結果、群馬県内に養蚕集落が広く分布して残されていることがわかりました。数多く残っている理由は養蚕農家が養蚕からりんご(沼田市・月夜野町)やこんにゃく(南牧村)の生産を続け、社会的変化にうまく適応できたからと考えられます。一方、リゾート地化した地域あるいは交通量の多い街道沿いの集落は建替えが進み、集落形態が失われているのがわかります。さらに養蚕集落の地域特性が、養蚕繭を主とする地域、製紙を主とする地域、織物を主とする地域、蚕種を主とする地域等として県内に総合

的に残されていることは貴重です。以上のように県内に広がる養蚕にかかわる集落は地区それ自体の価値だけではなく、総合的に養蚕体系全体を示す集落群が県内に存在することがわかり貴重であり、これらは総合的に観光活用として検討されることが望まれます。以上二地域の調査結果について紹介しましたが、他にも「日本シルクロード」(絹織物にかかわる産業)、「利根川水運圏」などの物語(ストーリー)から観光活用を目指し、資源発掘を試みました。その結果、単体としては見過ごされていた建造物も、意味ある物としてその価値が浮かびあがってきました。

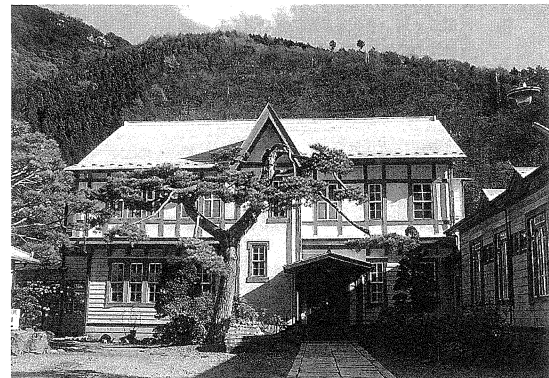
者に産業遺産としての魅力を伝える仕組みを検討しています。

② 群馬県の養蚕関連の集落

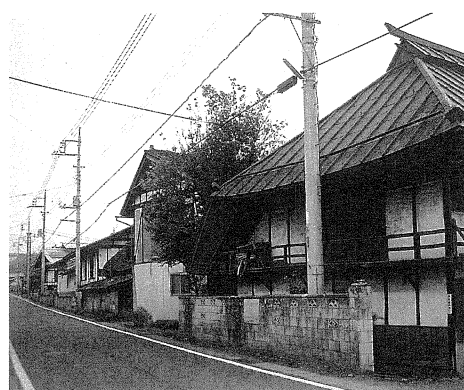
足尾は江戸時代には幕府直轄の銅山として銅を産出していましたが、明治期になり最新の技術・設備が導入されると近代の銅山として繁栄しました。近代化が見られたのは技術だけではなく、関連施設も急速に近代化され、私設電話の開設や水力発電の導入、道路用鉄橋など当時の最新の技術が導入され、煉瓦の建造物なども数多く建設され、近代的な都市として発展しました。しかし次第に銅の産出量が減少し、昭和四八年に閉山となりますが、近年、広域に広がる産業遺産は観光資源として注目されるようになっていきます。今回の調査において銅山施設だけではなく、それにかかわる関連施設も含め、足尾銅山施設を広域的に調査しました。その結果、これまであまり注目されなかった社宅(鉱山労働者の住宅)など、現在でも居住に使われている

① 足尾町の鉱山産業関連地域

次に国際観光にふさわしいテーマとして日本の近代化を支えた産業に焦点をあて、関東近郊の文化財建造物等を発掘、保護し、観光活用を検討するため、①足尾町の鉱山産業関連地域及び②群馬県全域を対象に養蚕関連集落において実施した調査結果を紹介します。



掛水倶楽部：明治40年に足尾銅山の迎賓館として建設された洋館建築(足尾町)



大規模な養蚕集落(群馬県)



南橋社宅(足尾町)

事例紹介

◆長官対談
 「文化人の本音」 河合隼雄文化庁長官対談
 吉田 都 バレリーナ
 「長官コラム文化庁の抜穴」

◆特集◆

著作物の流通の新たな展開

「文化庁提言」

流通新時代の著作権

「事例紹介」

動き始めた電子書籍ビジネスと著作権

音楽流通の新たな展開／着うたと音楽配信

ブロードバンドによるコンテンツ配信事業

エンターテインメント・ロイヤルズ・ネットワーク

「施策紹介」

新しい時代に対応した著作権施策の展開

◆文化庁ニュース◆

模倣品・海賊版対策相談対応体制

文化財新指定（美術・工芸品関係3）

ぼか

ぼか

編集後記

平成一五年度のはじめに小泉内閣総理大臣が国会の施政方針演説において外国人観光客の倍増を目標として観光立国を掲げて以来、政府一丸となって観光立国に向けて進んでいます。こうした時流を受け、今回の特集は「文化財建造物の保存・活用と観光」というテーマです。観光とは中国の四書五経の一つである「易経」の一節「国の光を観る」を語源とし、非常の深みのある言葉です。しかし、我が国ではその意味が次第に見失われてきたように思われます。

◆連載◆

「さいき」ニュージウム美術館・博物館事業レポート」

宮崎県総合博物館

「芸術文化の活動風景」

オペラを内側から支える人達

「そうかこうすればいいんだ」著作権教育実践事例」

身近な事柄から学ぶ「著作権」

「文化交流使の活動報告」

答礼人形研究家・高岡美知子

「伝建地区を見守る人々」伝建職時記」

くらしきまちや賞

「遺跡を楽しむ」

小学校の中の遺跡

「文化庁の地域文化振興施策」

全国高等学校総合文化祭を振り返って

「国語研究の最先端」

日本のふるさとことば—方言の記録

「風を呼ぼう、わが町に—登録文化財との歩み」

畑田家住宅からの文化の発信 畑田塾公開フォーラム

「文化力」ニューズウィーク 関西元氣文化園の取組

「関西学生」文化力」フェスタ

「国宝・重要文化財をもっと楽しむ方法」

仏像・神像・肖像

「日本の伝統美と技を守る人々」

琉球藍製造・琉球藍製造技術保存会

これまで伝統的建造物群保存地区を含め文化財建造物には、受入れ側の意思にかかわらず観光客が訪れ、文化財保護の立場に立つと「観光」は必ずしも好意的に受け入れられてきませんでした。観光の再考の時期にある現在、観光の原点にもどり、我が国の光である文化財建造物の魅力を高める上でもその保存・活用を検討し、新たな観光との関係を深めて行く必要があるといえます。

(建)

文化庁月報 9月号 (通巻432)

平成16年9月25日印刷・発行

編集—文化庁

〒100-8959 東京都千代田区丸の内2-5-1

発行—株式会社 きょうせい

本社 〒104-0061 東京都中央区銀座7-4-12

本部 〒167-8088 東京都杉並区荻窪4-30-16

電話 編集 03 (3571) 2126

販売 03 (5349) 6666

URL : http://www.gyosei.co.jp

印刷所—ぎょうせいデジタル株式会社

●本誌の掲載のうち、意見にわたる部分については、筆者個人の見解であることをお断りいたします。

定価540円 本体514円 送料76円

年間購読料6,480円

本誌のご購読のお申し込みは、直接弊社の本・支社、あるいは最寄りの書店へお申し込みください。

広告の問い合わせ・申し込み先

(株) ぎょうせい営業部広告課

電話03 (5349) 6657 (ダイヤルイン)

©2004 Printed in Japan ISSN 0916-9849

本誌は本文用紙に再生紙を使用しております。

文化庁では、ホームページで、文化庁に関する情報を幅広く提供しています。ご意見、文化庁月報の感想などを、ホームページのご意見欄へお寄せください。

●ホームページアドレス●

http://www.bunka.go.jp